

瀧 真由子 上野 聖子
中村進一郎

(目的)

令和2年5月より、外来化学療法施行患者に対して、薬剤師が化学療法についての文書による情報提供を行うことで連携充実加算（150点/月）の算定を開始した。同時に患者情報について院外薬局からFAXによる情報提供を受ける体制についても整備した。そこで、当院での連携充実加算の算定状況、及び保険薬局からのFAXによる情報提供件数について現状を調査することとした。

(方法)

令和2年5月～令和2年8月の連携充実加算の算定状況、及び保険薬局からの患者情報提供件数（FAX受領枚数）について調査した。

(結果)

令和2年5月～令和2年8月でのべ214件の連携充実加算の算定を行った。また、保険薬局からのFAX受領件数はのべ95枚であった。

(考察)

病院からの患者情報提供に対して、薬局の側からも活発に情報提供がなされていることがわかった。今後もさらなる連携充実を図っていきたい。

17. 骨密度測定装置（HOLOGIC HorizonA）による評価方法

放射線技術部

本村 壮司 辻井 貴雄
天野 隆司 岩見 守人
井手 充浩

近年、高齢化社会が進み平均寿命は年々延びており、生活の質（QOL）を重視した健康寿命に関心が高まっている。2016年のデータでは平均寿命と健康寿命との差は男性で8.84歳、女性で12.35歳となっている。これらの問題を検討する指標にサルコペニアがある。

サルコペニアとは身体的な障害やQOLの低下、および死亡などの有害な転帰のリスクを伴

うものであり、進行性および全身性の骨格筋量および骨格筋力の低下を特徴とする症候群である。高齢者におけるサルコペニアの影響は深刻なものであり、サルコペニア症例の発見は高齢者の健康寿命に大きく影響し、同一個人を同一測定方法で長期にわたって変化を確認することが重要である。

以前の骨密度測定装置は全身を撮れないためサルコペニアの検査は行えなかった。今回の装置は少ない被ばく線量で全身の骨密度、脂肪量、除脂肪量を測定することが可能であり、その評価法を紹介する。

18. 看護師と看護補助者との協働による看護ケアの充実を目指して

～看護補助者の遅出業務を追加して～

看護部

○芝山 富子 柴田由美子
太田 加代 高原 美貴
芦田真知子 駒田 香苗

【発表要旨】

当院看護部では、医師の負担軽減策として血管確保や静脈注射、抗がん剤投与や輸血、特定行為研修修了者による活動等に積極的に取り組んできた。一方、重症度、医療・看護必要度が常時40%以上であることから、看護師はやりたいう看護が十分できていないとジレンマを感じていた。そこで、看護補助者との協働による看護ケアの充実により患者が安心して夜間を過ごせること、準夜看護師の負担を軽減することから、2020年9月1日より看護補助者の遅出業務を追加した。また、同時期にコロナ禍での看護学生のアルバイト先を確保すること等の理由から、看護学生による夜間看護補助者のアルバイトも開始した。

これにより、夜間帯の勤務者が増えて業務が分担できることから、看護補助者が環境整備の充実や安全かつタイムリーな看護ケアへ参画できるようになっている。

看護補助者の遅出を追加したことによる現状

と課題について報告する。

19. 当科で経験した子宮破裂の1例

産婦人科

相本 法慧 河合 清日
牛尾 友紀 武田 和哉
番匠 里紗 平田 智子
西條 昌之 西田 友美
中山 朋子 小高 晃嗣
水谷 靖司

【緒言】 子宮破裂は周産期死亡の原因となる最も重篤な母体合併症の一つである。その多くは子宮手術歴等のリスク因子を有し、ほとんどが分娩中の発症である。今回、子宮手術既往なく妊娠中期に発症した子宮破裂例について報告する。

【症例】 32歳，4妊3産，手術歴なし。妊娠16週1日に腹痛を主訴に救急搬送され，当院到着時にはショックバイタルを呈していた。エコーおよび腹腔穿刺にて出血を確認し，子宮破裂も鑑別に挙げて速やかに緊急開腹手術を施行した。術中に右副角子宮妊娠および子宮破裂と診断し右副角子宮を切除した。

【考察】 今回，救急外来での迅速な対応と適切な周術期管理によって母体を救命できた。本疾患は子宮手術歴の既往がない場合や分娩管理中以外でも発症しうる。今後も当院のような母体搬送を多く受け入れる周産期センターでは，このような稀な病態も起こりうると改めて銘記し，早期の診断・治療介入を心がけていきたい。